

2021/4/21

(うとQ世話し「不健康」の春)

世の中は春。

気分が、ではなくて、季節が。

明るい陽光。ふんわりと暖かい微風、ややひんやりとしたそよ風が入れ代わり立ち代わり。

色とりどりの花が咲いて、小鳥が空に舞う。

もし、街の通りに人が歩いていなければ、精気旺溢して、躍動が息吹き始める春なのですが、どうも歩いている人々に元気がない。元気がないというより

「とても不健康」に見える。

「何故、そう思うの？コロナ禍のせい？コロナ禍の巣ごもりのせい？」

「…」

返答に窮しました。理由は定かではないのですが、自分には間違いなく「そう見える」のです。

そもそも「巣ごもり」なら、家の中での話です。屋外の話ではない。

屋内から逃れて、つかの間にもせよ屋外に出ているのなら、もう少し明るい顔をしていてもよさそうだし、今少し面を上げて、胸を張ってもよさそうなものなのに、殆どの人がそういう姿で歩いてはいない。

マスクをしている？

これは今日（きょうび）致し方ないでしょう。

キャップ帽をかぶって、サングラスを掛けている？

これも日差しが強くなってきた事を考えれば、納得がいきます。

ならば何故、そう見えるのか？

思い当たったのは「スマホながら見、歩き」

うつむいている。

辺りに何も注意を払っていない。

周りと隔絶している。

なので、春の景色も、人の様子も目にも心にも届いていない。

「孤独」が歩いているように見える。

何かから「逃避」しているようも見える。

何かから「身を隠して」いるようにも見えなくはない。

その中で、反対に匿名空間の中で「天上天下唯我独尊の仕置き人か帝王」になっているようにも見える。

キャップ帽を被って、サングラスをして、マスクもしたうえで、うつむいてスマホに見入っている、その姿と行動パターンは、何となく「闇の世界の住人」を想起させます。

お天道様と人目を避け、こっそりと「怪しい任務」を遂行する「スパイ」か「ヒットマン」を。

スパイかヒットマンが健康的に見える社会では困るので、恐らく自分は、こういった姿に「不健康さ」を感じているのだと思っております。

不健康という言葉で別の言葉で表すと

日照不足からくる

「退色」「縮萎（ちじみなえ）」「血巡（ちめぐり）不良」「滞留」「淀み」「澱（おり）」

というイメージでしょうか。

そうして最後は

「張りのない黄ばんだ肌」

のイメージ。

因みに、かく申し上げております自分は、身体的、生活的には不健康の権化みたいなものです。

暴飲、暴食、不規則な生活、ワーカホリック、呼吸器系、骨系、眼球系他、各種疾患にまみれております。

自分の身体に積みあがった積年の不健康の重荷度合いがわかっているので、五体には、自分が日々苦しめられている項に関しては、特に問題なさそうなのに、とても不健康に見えるひとさまの様子が過度に気になっているのかもしれない。

なので、そんな自分の目から見ると、他人事ながら、実に

「もったいない」

と思ってしまうのです。